

分自身を変えていく一步であることを共通認識し、地味ではあるが取り組んでいきたいものです。

(3) 地域の自然・文化・歴史・産業から学ぶ

地域は学びの宝庫です。地域の自然・文化・歴史・産業から学びます。地域教材を取り上げ、子どもの学びを展開することは、子どもの五感を刺激するとともに、心の醸成につながります。また、体験や学びは、1回きりでなく、身近にあることを考慮し、子どもの学びの深さにつながるよう、繰り返し学べるようにしていく必要があります。

7 おわりに

子どもたちにとって「うらだての森づくり」が、また、「うらだての森を通しての活動」が、自然を身近に感じる第一歩となることを願っています。そして、地球そのものや地球の環境問題に目を向け、今後どのように対応していけば良いのかを考え、行動し、問題を解決する子どもになって欲しいと願っています。

地球の置かれて状況は極めて厳しいものがあります、今後どんな異変が起こるかは想像出来ません。学者によっては、地球は100年もたない、と仮説を立てている人もいます。化石燃料の使い果たしは数十年先です。新しい燃料の開発が叫ばれています。まだこれと言った燃料は開発されていません。一刻も早い開発が望まれています。あらゆることが地球環境と深くかかわっています、地球を大事にしていきたいものです。

講師紹介

大野源(おおのげん) 昭和20年 栃尾市に生まれる

昭和43年 栃尾市立栃尾小 教諭	昭和50年 見附市立今町小 教諭
昭和60年 栃尾市立栃尾南小教諭	平成3年 新発田市立菅谷小 教頭
平成5年 三条市立月岡小 教頭	平成7年 十日町市立赤倉小 校長
平成10年 下田村立笹岡小 校長	平成13年 三条市立裏館小 校長
平成8年 博報賞(教育賞)受賞	教育実践および国際交流活動
平成13年 新潟県出版文化賞受賞	「越後・下田の昔話」出版

5月27日例会: 地区協議会報告会

6月3日例会: 4日に例会日変更

6月4日例会: (水) サンセットディナーパーティー(ホテル日航新潟)三条出発17:30

6月10日例会: 米山奨学生世話クラブに当たって 梨本清一会員

6月17日例会: クラブフォーラム(次年度)

6月24日例会: 会長幹事慰労会

7月1日例会: 今年度方針発表

7月8日例会: 識字率向上月間

Sow the Seeds of Love



会長/梨木建夫
幹事/五十嵐 茂
SAA/佐藤弘志

三条北ロータリークラブ週報

慈愛の種を 播きましょう

例会日
2003. 5. 20
累計 No 802
当年 No 43

国際ロータリー会長 ビチャイ・ラタクル 第2560地区ガバナー 佐野 孝

ホームページ <http://www2.next.ne.jp/2560sano/>

例会日/火曜日 12:30~13:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114

事務局/三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内

☎35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行 事: 卓話「うらだての森を通して見た日本の教育」

三条市立裏館小学校校長 大野 源 様

出 席: 本日の出席 60名中 36名

先々週の出席率 60名中 52名 86.67% (前年同期82.76%)

先週のメイクアップ: 5月7日 森(北海道)RCへ 淵岡 茂さん

15日 東京池袋RCへ 笹原壮玄さん

16日 吉田RCへ 今村 泉さん

19日 三条南RCへ 山上茂夫さん

20日 田上あじさいRCへ 青木省一さん、高橋彰雄さん

ビジター: 三条RCより 橋 直樹さん

三条南RCより 永桶栄資さん

会長挨拶: 梨木 建夫



今日は「接客業こそ現代の潤滑油に」ということでお話をさせていただきます。

「自然とは不合理な物の絶え間ない侵入であり、神様の存在であり、巧まない美であり、生まれながらの善良であり、人生における奇跡的なものの一切である」とフランスの作家のシャトルドンヌという人が言っております。

最近は機械化されコンピューター化された社会からしばし離れて、大自然の中で不合理で窮屈なキャンプ生活や原始的生活をする人が増えています。

早稲田大学理工学部の高木教授は「歴史の中で最も進歩したのは機会であり、進歩しなかったのはそれを作った人間である」とおっしゃっています。

人々が様々な社会や環境に適応するための息苦しさを感じて大自然へ逃げ出して行くのもわかるような気がします。そうしたことは商品の嗜好傾向にも現れ、大量生産されたものよりも手作りの個性的なものに目がむけられてきています。

自動販売機なども最初は不機嫌な駅員や、受付の顔を見るよりも、よっぽどいいと評判でしたが、対話の相手のいない買い物はやはりちょっとさみしい感じがします。又、都会では最近人間があまりも多いせいか、毎日の通勤で利用する駅の改札係の人と顔見知りになることもできません。現代人はむしろ、こうした人間と人間の心の触れ合いというものに飢えているのではないのでしょうか。さいわい私達は日々お客様と接触する仕事をしている訳です。少しでもこの無味乾燥でギスギスした人間社会に、にこやかな挨拶や気持ちの良いサービスをすることによって潤滑油の役割を果たしたいものです。心と心の触れ合いを大切にお店では人情の機微も売りたいものです。

幹 事 報 告： 五十嵐幹事

- ・佐野ガバナーより 地区大会報告書送付について（参加者に配布済み）
- ・6月の定例理事会は次週27日に行います。理事役員の方はよろしく願います
- ・R I 日本事務局より ローターレート変更のお知らせ 6／1より1 \$ 116円となります（原稿122円）
- ・佐野ガバナーより 新世代育成プログラム講演会参加のお願い
日時 平成15年6月14日（土）13：30～
会場 NSG新潟総合プラザステップ
講師 渡部 昇一（上智大学名誉教授）
演題 再び日本に『美しき虹を』
- ・原ガバナーエレクトより 毛利衛氏講演会参加子供達の人数把握のお願い
- ・明るい町づくり推進委員会より 平成15年度総会開催について
日時 平成15年5月28日（水）14：00～
会場 東北電力三条営業所

ニコニコボックス：	20日現在累計 1,055,600円
-----------	--------------------

- 梨木建夫君 大野先生、先日は誠に有難うございました。なつかしい給食の味感激致しました。本日は宜しく願い申し上げます。
- 五十嵐茂君 ”
- 木宮隆君 大野先生卓話ご苦労様です。
- 本間建雄美君 本日の卓話、大野先生の卓話楽しみにしております。
- 駒形実君 BOXに協力。
- 山本賢君 西山斉さん、男児ご誕生おめでとうございます。

えです。12億の中から力を持った子どもを選びます。日本はもたもたしていたら追い抜かれてしまいます。

韓国にも視察の機会を得ることが出来ました。下田の笹岡小学校の校長時代に韓国の教育視察団の訪問を受けました。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学の先生方27名は、笹岡小学校の教育の実態に触れ、感激して帰りました。その縁で小学校の視察や教育実態をつぶさに知ることができました。仁川大学、仁川教育大学、ソウル大学の教授や助教授の皆さんから大歓迎を受ける中、様々な情報を得ることが出来ました。今、韓国では、小学校・中学校・高等学校の校庭に森づくりが進んでいます。ソウル市内の全学校に造成する予定だそうです。

教育方法は座学が中心で、特に学ぶべきところは少ないですが、ホリスティック教育の導入が盛んで、学びを中心とした教育に転換しつつありました。

平成8年には、インドの教育事情を視察する機会を得ました。10日間ほどでしたが学ぶべきことがたくさんありました。インドはご存知の様に、イギリスの統治国でした。したがって、英国流教育が徹底していて、感覚的には、中国より日本に近い印象すら受けました。貧富の差が激しく、いまだカースト制度からの脱皮が出来ないでいました。富裕層の教育は英国流ですから素晴らしいものでした。世界のどこの教育にも劣りません。

平成12年には、ドイツを10日間視察する機会を得ました。指揮者の小沢征爾さんのお兄さん（小沢俊夫）の案内でした。小沢俊夫さんは、グリム研究の世界的権威です。筑波大の副学長をされた方です。ドイツでは「わかちあいの教育」が展開されていました。また、労働による分かち合い（ワークシェアリング）も進み、経済危機を乗り切る努力をしていました。農業政策では、農民の保護政策が進み、離農者が出ないということでした。また、森林を大切に、植樹、伐採等を厳しく制限したり、美観を保つ努力をしたりしていました。

今、世界の教育は生涯学習という視点から学びを中心とした方向に舵を切っています。国によっては、教科学習から総合学習に切り替えています。世界の教育は大きく転換しています。このことをしっかり知っておく必要があります。

6 日本の教育の動向

（1）環境学習の導入

世界各国では、自然環境の保全や整備にかなりの時間と労力、お金をかけている。日本は緑に恵まれ、どこに行っても環境は整っています。しかし、一步奥山に入ると、かつての杉山は荒れ、見るに耐えない状況です。日本でもいち早く環境学習を立ち上げ、子ども、大人を問わず学んでいかなければなりません。

（2）座学から学びへ

日本の教育の基本は座学が中心でした。座学から脱皮し、学びへと転換する必要があります。また、デベートを行いながら生き生きと学べる努力を続けていく必要があります。このことが日本の教育や自